

道の次代を担うようほくへと成人しよう！

一、教祖のひながたを学び、教えを實踐しよう

○教会につながり、つなげよう

○日々親心を探し、明るく勇んでおたすけを實踐しよう

一、会員の倍増

○スタッフ研修会の充実

○一人ひとりと心をつなごう

道の次代を担うようほくへと成人しよう！

論達第三号の中で、「この限らない親心に仕切ってお応えすることこそ、教祖の年祭を勤める意義である。」とお示しくだされていきます。年祭活動仕上げの年に活動させていただく今期は、何よりも教祖の親心にお応えすることを目指します。教祖の親心に応えるとは、親神様の思召にそった姿へと成人していくことです。多くの先の方が繋いでくださったこの道を世界中に伝え、陽気ぐらし世界実現のために、将来を見据えて歩んでいきましょう。教祖百三十年祭、そして「教祖百三十年祭 学生おぢばがえり大会」に向けてのラストスパート、親に喜んでもらいたいという一心で取り組んでいきましょう。

一、教祖のひながたを学び、教えを實踐しよう

「立教百七十八年春の学生おぢばがえり式典」で真柱様は「成人とは、教祖の教えを實踐して暮らし、その日々の積み重ねで、親神様の思召に近づいていくことであります。」とお話しくださいました。成人するためには、教祖のひながたを学び、日々教えを實踐することが必要です。

○教会につながり、つなげよう

教会は私たち一人ひとりの信仰の拠点であり、陽気ぐらしの手本を示す場所です。さらには親神様の思召を伝え広げる「たすけの道場」とも言われています。教会につながることで、親神様、教祖とつながることができ、その教えを学ぶことができます。おたすけのできるようほくへと成人するために、所属教会の一員であることを自覚し、日々心をつなぎましょう。まずは自分がつながりを求め、周りの仲間も教会につながる事ができるように努力しましょう。

○日々親心を探し、明るく勇んでおたすけを實踐しよう

教祖は、どんな中もその出来事の根底にある親神様の思召を説き明かし、周りの人々を勇まし励まして通られました。私たちも、日々起こってくる出来事を通して親神様が人だすけを促されていると受け止め、明るく勇んでおたすけを實踐しましょう。そうすることで親神様の思召を理解することができ、おたすけのできるようほくへと成人することができます。

一、会員の倍増

教祖の年祭は、たすけの句であり、不思議現る句とも言われています。だからこそこの句に、たくさんの人にお道を伝え広げていくために、会員の倍増を目指します。学生活動に参加してもらえよう声をかけることは、学生にできる立派なおたすけです。また、目標を掲げることで、大きく成長することができます。したがって、大会参加者一人人に向けて一つ一つの行事の参加者も例年の倍の人数を目指します。簡単な目標ではありませんが、諦めずに最後まで声をかけ続け、教祖にお喜びいただけますように。

○スタッフ研修会の充実

たくさんの人にお道を伝えるために、まずはスタッフが学生会の目的である会則第三条についてしっかりと考える機会が必要です。また学生が集まり練り合いを行う中で、仲間の存在を感じることや気持ちを高め合うことができます。大勢の人にながつてもらうために、受け入れる器を作る努力をしましょう。

○一人ひとりと心をつなごう

動員活動や行事中、また行事後に、一人ひとりと心をつなぐことを心がけることで、大勢の仲間が学生活動に参加してくれます。動員活動の際や行事中には、一回一回真心を込めて積極的につながりを求めましょう。また行事後には参加してくれた感謝の気持ちを伝えるなど、次につながってくれるよう声をかけましょう。会員、スタッフ倍増のためにたくさん声をかける中にも、私たちが出会う一人ひとりと心をつなぐことを意識しましょう。